

招 へ い 研 究 者 報 告 書

招へい研究者氏名	ロンドン大学 Andrew Gerstle (アンドリュー・ガーストル)			
招へい期間	(西暦) 2022年7月10日～2022年8月21日			
受入機関	東西学術研究所			
受入担当者	所 属	外国語学部	資 格	教授
	氏 名	奥村佳代子		
講演会実績				
<p>○<u>学生向け</u>講演会タイトル：「仮名手本忠臣蔵」の忠義・英雄・悲劇は普遍的であろうか？</p> <p>○科目名：カルチュラル・インタラクション1 (授業時間内での講演)</p> <p>○日時：2022年7月18日(月) 13:00～14:30 (E502 教室)</p> <p>○概要：ロンドン大学名誉教授のアンドリュー・ガーストル氏が日本文化(演劇・刷物・絵画)の研究を始めた動機などを、若い時期から現在に至るまで詳しく話した後、日本の演劇、とりわけ「仮名手本忠臣蔵」の忠義の本質について講義が及んだ。中心となる「お軽・勘平」の段を採り上げ、近松門左衛門の戯曲の狙いがどこにあったのかについて、詳細に論じられた。江戸時代の人々の考え方や行動の基本とその普遍性について、氏の研究を踏まえた重厚な講義であった。</p> <p>○研究者向け講演会タイトル：近世・近代における大坂の芸能と絵画の特徴</p> <p>○日時：2022年7月22日(金) 14:40～16:10 (以文館4階セミナー室)</p> <p>○概要：ロンドン大学名誉教授のアンドリュー・ガーストル氏と関西大学名誉教授の中谷伸生氏との対談で、ガーストル氏の日本文化に対する学問的姿勢の話に始まり、中谷氏による京都国立近代美術館での展覧会「サロン! 雅と俗 京の大家と知られざる大坂画壇」(KU-ORCAS 協賛)の内容について話が進み、俳諧刷物や春画についての議論がなされ、日本とイギリスとの文化的相違などに言及された。また「サロン」展に出品された大英博物館所蔵の絵画に話が及び、京と大坂の文人交流の話に基づいて、日英の研究者間の交流の話題へと展開した。会場では対面での講演会となり、同時にオンライン参加(ZOOM)による30名ほどの参加者が加わった。</p>				